

# 河川管理者との質疑（委員会）

- 上流の無堤地区でも流量が増え流速が大きいと壊滅的被害の可能性が生じる場所があり、そのような場所では対策を行うことが必要（土砂災害）
- 壊滅的被害を防止するという観点から壊滅的被害が発生しないかどうかまず検証する必要がある。
- 壊滅的被害の回避を優先に考えるというのは理念。そのための手段には様々な代替案があり、どの代替案がよいのかは様々な要素を勘案して決定

# 河川管理者との質疑（委員会）

- 各河川や上、中、下流でも特性が異なる。危険度に応じた優先順位の表などを作成し、個別のデータごとに具体的な説明がないと抽象的な総論しか議論できない
- 河川整備計画を作成していく中で具体的なメニューを出していきながら、議論を深めていきたい

# 河川管理者との質疑（淀川部会）

- 現時点では狭窄部の開削はさけるべきであるが、下流部の流下能力や破堤対策を考慮した上で、例えば、トンネルによって流下能力を増やすという対策は考えられる
- 安易に開削するのは避けてほしい

# 河川管理者との質疑（淀川部会）

- これまでは「総論」、今後はいかに「各論化」していくかが問題。総合的な視点からの流域治水対策とはどういうものなのか、地域ごとの優先順位をいかに考えるか、議論すべきことはまだまだたくさんある。

# 中間とりまとめの共通認識

## 壊滅的被害の防止を最優先する

- 堤防の破堤は壊滅的被害につながる

## 上下流のバランス

- 木津川筋には狭窄部があり整備のバランスが必要

## 浸水頻度の軽減

- 浸水頻度の高い場所是对策が必要